

わたしとみらい、つながるサイエンス展

出展者募集案内

令和6年11月

文部科学省 科学技術・学術政策局 産業連携・地域振興課

<目次>

1. 本番イベントの趣旨・目的	1
2. 本番イベントの概要	2
3. 出展要件	6
4. 申請	10
5. 審査	12
6. 手続き及びスケジュール等	13
7. その他	14

別紙 TypeB の出展に係るルール等について

1. 本番イベントの趣旨・目的

昨今、知と人材の集積拠点である大学等のイノベーション創造への役割が増えている中、我が国が、世界に伍して競争するためには、将来の不確実性や知識集約型社会に対応したイノベーション・エコシステムを「組織」対「組織」の産学官共創により構築することが必要となります。そのため、文部科学省ではこれまで国立研究開発法人科学技術振興機構（JST）とも連携し、「センター・オブ・イノベーション（COI）プログラム」や「共創の場形成支援プログラム（COI-NEXT）」等、様々な産学官連携施策を実施してきました。

特に、令和2年度に開始した COI-NEXT では、大学等が中心となり、企業や自治体、市民など、多様なステークホルダーを巻き込みながら、国連の持続可能な開発目標（以下、「SDGs」という。）に基づく未来のありたい社会像（拠点ビジョン）を策定し、その達成に向け、バックキャストを通じたイノベーションに資する研究開発と、自立的・持続的な拠点形成のために必要な産学官連携マネジメントシステムの構築を同時並行で推進しています。

他方、令和7年（2025年）には、「2025年日本国際博覧会」（以下、「大阪・関西万博」という。）が、「いのち輝く未来社会のデザイン」をテーマとして開催される予定です。万博では、様々な国・国際機関・企業・団体等が共創して事業を企画し、テーマが実現された未来社会の姿を会場内に作り出すことを目指しています。

なお、令和7年（2025年）は、SDGs の達成目標年である令和12年（2030年）の5年前であり、SDGs 達成に向けたこれまでの取組の進捗状況を確認し、その達成に向けた取組を加速させるとともに、令和12年より先（+beyond）に向けた目標が示されることも期待される年でもあります。

本事業では、この万博というまたとない機会を活用し、大阪・関西万博での出展（以下、「本番イベント」という。）を通じて、産学官連携施策を通じた成果や活動を国内外に広く発信するとともに、体験型コンテンツの展示等（以下、「体験型コンテンツ等」という。）を通じて来場者が“未来のありたい社会”を想像し、未来を担う国内外の若者たちが共に社会課題を自分事として捉える機会を提供することを目的とします。

URL：『[2025年大阪・関西万博アクションプラン Ver.5](#)』81枚目

『共創の場形成支援プログラム』（<https://www.jst.go.jp/pf/platform/>）

2. 本番イベントの概要

(1) 開催概要

名 称：わたしとみらい、つながるサイエンス展

開催期間：令和7年8月14日（木）～8月19日（火） 6日間

（搬入：8月12～13日 / 搬出：8月20日）

開場時間：9時～21時（予定）

会 場：大阪・関西万博会場（夢洲） EXPO メッセ

https://www.expo2025.or.jp/wp/wp-content/themes/expo2025orjp_2022/assets/pdf/sponsorship/event/event_facility_summary_230911.pdf

(2) 本番イベントのコンセプト

来場者のメインターゲットは中高生などの若者、サブターゲットは国内外の企業・団体とし、産学官連携拠点等における、科学技術を活用した、社会課題を解決するための研究成果を発信します。

「つながる」をテーマに、「自分とつながる」「周囲とつながる」「社会とつながる」「地球とつながる」の4つのゾーンに、来場者の五感に訴えかけるような体験型展示を展開し、来場者が能動的・主体的に未来の創り手として物事を考え、行動に踏み出す機会を提供します。また、会場のステージ等では、希望に応じて出展者の体験型コンテンツと連動したトークセッション等を実施予定です。

4つのゾーンのコンセプト、会場演出で使用するデザインカラー、コンセプトに基づく出展提案例、及びすでに決定済みの Type A・Type B（後述）の出展大学の概要、テーマは以下のとおりです。

① 「自分とつながる」

自分自身を知り、今回のコンセプトである「つながる」を体験していただくゾーン。

＜デザインカラー＞

赤系

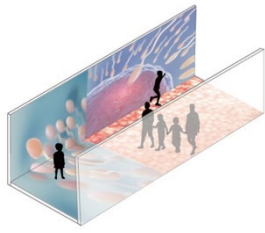
＜提案例＞

- ・ ヒト、生命のあり方そのものにフォーカスした提案
- ・ 心と体の関係性にフォーカスした提案
- ・ 来場者が自分自身と向き合える提案

＜Type A の出展大学等＞

北海道大学（連携大学等：慶應義塾大学）：

ライフジャーニー ＜こころとカラダをみらいにつむぎ、せかいをおもう＞



北海道大学では、共創の場形成支援プログラム地域共創分野本格型「こころとカラダのライフデザイン」共創拠点の取り組みとして、北海道の自治体と若者が自分自身のライフデザインを考える上で大切になる「ヘルスリテラシー」について深く理解し、将来をより豊かに思い描いて

もらえるような取り組みを進めています。「わたしとみらい、つながるサイエンス展」では、人体、健康、自然に関する CG や映像資料を用いて、生命・成長・ライフジャーニーを今までにない映像で表現することを目指しています。

<TypeB の出展大学等>

横浜市立大学：大人でも子どもでもない君達へ～探求型メタバース～

国立循環器病研究センター：顕微鏡イメージングの新世界 ～ 透明魚 ～

② 「周囲とつながる」

自分だけでなく、周囲（コミュニティ）とつながることの重要性を感じていただくゾーン。

<デザインカラー>

黄色系

<提案例>

- ・ 身近なコミュニティの繋がりから課題解決を図る提案
- ・ 地域住民とのコミュニケーションを重視した活動、地域振興に関する提案
- ・ 来場者同士のコミュニケーションを促す提案

<Type A の出展大学等>

東京藝術大学（連携大学等：独立行政法人国立美術館）：

移動型ミュージアム：「Hello Future! 100 年ミュージアム」



私たちの「ART 共創拠点」では、健康の社会的格差を縮める「文化的処方」の取り組みを進めています。「文化的処方」とは、アートや文化を通して、自分の生き生きした感覚や創造性、多様性を再発見し、その人をとりまく時間と空間に「つながり感」を増やす処方です。この展示

「Hello Future! 100 年ミュージアム」は、人々が主体的に作品や資料に出会えるよう体験がデザインされています。ただ展示を見るだけでなく、手を動かし、アートコミュニケータと話をすることで、自分を取り巻く時間や空間を他の人とシェアすることができます。自分のスマートフォンを使い、誰でも音楽に直接参加して楽しむ新しい音楽体験のワークショップも行います。プレイベントは体験システムの検証を目的として行います。

<TypeB の出展大学等>

つくばグローバルイノベーション機構：社長になろう！

京都大学 N プロジェクト：先端科学に基づく文系理系 2000 名の現役高校生と挑む科学に理解ある社会づくり

③ 「社会とつながる」

社会とのつながりを意識し、社会課題解決のための科学技術に触れていただくゾーン。

<デザインカラー>

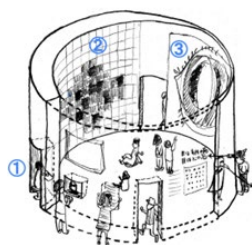
緑系

<提案例>

- ・ 社会生活の中で直面する課題にアプローチした提案
- ・ 人間社会の抱える課題について考える提案

<Type A の出展大学等>

東北大学：「見る」を「診る」 眼から未来を視る 2040 年のマイクロ診療所
眼は世界を観る感覚器官としてのセンサーであると同時に、眼を調べることで目以外の身体の状態や健康リスクが予測できることがわかってきています。これが東北大学で力を入れている、「未来型健診」です。眼を中心とした体を傷つけることはない簡易な装置を活用し、将来は、個人宅やコンビニといった場所に小さく簡便な「マイクロ診療所」を展開していく構想です。



東北大学では、このような眼から未来を視る「マイクロ診療所」が社会に普及したと仮定する世界を、プロトタイプして展示します。

この体験を通して、健康的な未来を支えるマイクロ診療所の重要性や眼から広がる未来の可能性を知ってもらうことが目的です。

<TypeB の出展大学等>

富山大学：未来への贈り物 ―アルミからはじまる資源循環社会―

広島大学：卵アレルギーの謎を解く！ ～あなたもゲノム探偵になろう～

香川大学：希少糖でつくる未来

④ 「地球とつながる」

より大きな地球という概念で考え、地球とつながることにより行動する重要性を体感していただくゾーン。

<デザインカラー>

青系

<提案例>

- ・ 自然環境と社会との関わりについて考える提案
- ・ 宇宙空間を対象とした研究などの成果活用により、地球を含む様々な課題の解決を目指す提案
- ・ 来場者が地球規模の課題と向き合い、できることを考えさせる提案

<Type A の出展大学等>

信州大学：～水の惑星地球を再生する「アクア・リジェネレーション」への材料科学からのアクション～

信州大学は、ありたい未来の姿として、水の惑星地球の再生「アクア・リジェネレーション」を提唱しています。大阪・関西万博では、信大クリスタル・信大逆浸透（RO）膜による浄水・造水技術や、太陽エネルギーで水を分解しグリーン水素を得るソーラー水素のコンテンツを展示し、来場者に「アクア・リジェネレーション」を体験していただきます。体験を通じて、一人ひとりが、安全な水



へのアクセス、水資源の保全及び気候変動の抑制等、「水」にまつわる世界の課題を自分ごととして実感し、そして、身近なことから地球のためにできるポジティブなアクションをみずから起こす、持続可能で豊かな社会の実現に向けた行動変容につなげます。

<TypeB の出展大学等>

秋田県立大学：木材高度加工研究所：日本の「森」と「木」を知る

金沢大学：バイオマスのめぐみがめぐる社会 ～植物由来プラスチックで私たちの未来をどう変える！？～

福井大学：フクの未来、幸福な未来へ（仮称）

琉球大学：未来の食生産を創造する Blue&Green Revolution

会場における各ゾーンの配置は次のように想定しています。(変更の可能性があります。)



3. 出展要件

募集の対象は、文部科学省または国立研究開発法人科学技術振興機構（JST）の産学官連携事業（※）に採択された大学等（国公立大学、国公立研究機関等の公的研究機関等、公益法人等の公的性格を有する機関）、及び当該大学等に所属する研究者とします。なお、現在の採択状況は問いません。

※ 事業例：センター・オブ・イノベーション（COI）プログラム、共創の場形成支援プログラム（COI-NEXT）、地域イノベーション・エコシステム形成プログラム、産学共創プラットフォーム共同研究推進プログラム（OPERA）等

会場は、各出展者の産学官連携事業による成果物（来場者が科学技術を体験できる製品・サービス・試作品等）が3つの種類（TypeA（※）、TypeB、TypeC）の展示パターンで構成され、本募集では TypeB 及び TypeC の出展希望を受け付けます。

なお、TypeB の出展にあたり体験型コンテンツの制作費用や当日の人員については、各大学等の負担となります。企業等の協賛金を含む、自己資金を活用ください。文部科学省から追加の補助事業等を実施する予定はありません。なお、COI-NEXT で現在採択している大学等は委託研究費の一部を活用することは可能です（該当拠点には別途詳細を連絡します）。

※ TypeA は、文部科学省「大阪・関西万博を契機とした大学等を中核とする産学官連携の加速化事業」の補助金を活用し、大規模な展示を実施するものです。

URL : https://www.mext.go.jp/b_menu/boshu/detail/mext_00406.html

※ TypeB には一部内定済みの展示があります。後述するプレイベントにも出展いただく予定です。

(1) TypeB

出展ブースの面積は原則 13 m² (3.6m×3.6m) 以下とし、「2. (2) 本番イベントのコンセプト」を勘案し、当該出展ブースにおいて、各出展者が自由に体験型コンテンツを展開します。

展示にあたってのルール等は別紙にて記載しますが、公益社団法人 2025 年日本国際博覧会協会（以下、「博覧会協会」という。）との協議等により変更をお願いする場合がありますので、あらかじめご了承ください。

(2) TypeC

会場の来場者に「社会課題」を知ってもらい、興味をもってもらうことで、社会課題を自分ごととして捉えることができるような展示を行い、日本中のたくさんの研究者が、社会課題を解決するために、何をどのように行っているかを理解してもらうことを目指します。中高生などの若者を訴求対象としているため、アカデミックなポスター発表に類する内容は控えてください。

各出展者は、研究成果に関する文章や写真等のデータと、下記 2 つのいずれの展示方法の希望とともに、事務局に提供していただきます。事務局では、作成する展示物に当該データを掲載し、会場内に展開します。（提供されたデータや展示方法については、事務局で編集または内容の調整にご協力いただく場合があります。）

また、今回採択する TypeC の出展物の一部は、文部科学省が実施する「わたしとみらい、つながるサイエンス展」のプレイベント（※）においても、会場内に展示予定です。

（※）開催期間：令和 7 年 2 月 13 日（木）～2 月 16 日（日）4 日間

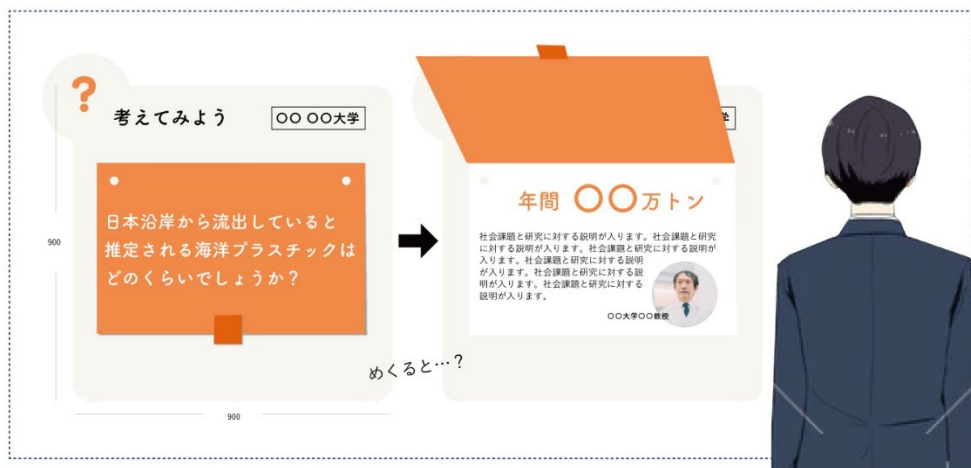
開催時間：11 時～18 時 ※最終日のみ 16 時まで（予定）

会場：東京都内の屋内展示スペース

【展示方法】

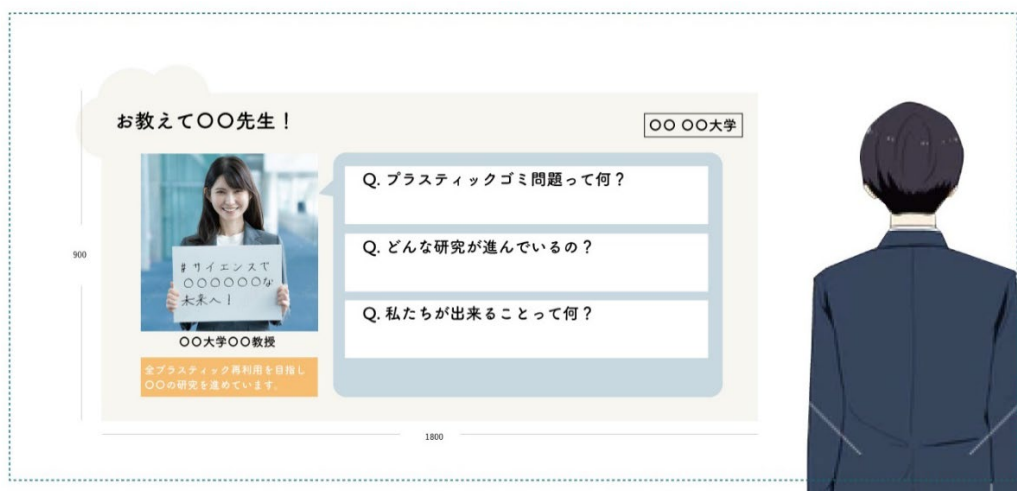
パターン1：来場者参加のクイズ形式

ゾーンごとにパネルのカラーを変え、社会課題に関するクイズを記載します。
（例：日本沿岸から流出していると推定される海洋プラスチックはどれくらい？）来場者がめくると、その答え＋研究発表になっている構成です。



パターン2：研究者が作りたい未来

「顔が見える研究者」をPRしながら、参加者が社会課題に対して出来ることを考えるきっかけ作りとなる構成です。研究者がパネルを持っているような写真を使用し各展示の統一感も演出します。



＜TypeB と TypeC の条件比較表＞

出展のパターン	TypeB	TypeC
スペース	自大学のみ区画	汎用スペースの一部
展示企画のフォーカス	大学等の産学官連携研究	大学等の産学官連携研究に参画する研究者（大学等発ベンチャー含む）
企画内容	・本番イベントのゾーンコンセプトを加味して、各大学が自由に決定する。（提出された内容によっては、事務局との間で内容の調整にご協力いただく場合がある。） ・パネル展示のみは不可。訪問者が何らかの体験ができる展示物を用意することを推奨。 ・デザインルール等はある	・汎用企画に各研究者（大学）が参画する。 ・大学側は、写真等の素材提供のみを実施。（提供されたデータや展示方法については、事務局で編集または内容の調整にご協力いただく場合がある。）
コスト	・自大学区画内展示物に係るコスト(※)は、連携企業からの協賛金を含む自己資金の活用を想定。 ・その他大学独自で確保する予算や、JST の委託研究費の一部を拠点のアウトリーチ費として活用可能（COI-NEXT の現在の採択大学等に限る。該当拠点には別途詳細を連絡）。 ※印刷・輸送・搬出入等のコスト含む。	・作業としては写真や説明文等を事務局へ提出するのみであり、ほぼ生じない。（展示物のために高解像度の画像が必要になる可能性あり。必要に応じて出展者側で用意。） ・印刷・輸送・搬出入等のコストもなし。
本番イベント開催中の運用に携わる人材の有無	企画の運営に要する人員を必ず常時 1 名以上確保してください。 ※申請機関において必要とする人員が不足する場合には、ご相談ください。	不要。

4. 申請

産学官連携施策による成果の発信を希望し、本募集に申請する大学等（以下、「申請大学等」という。）は、以下の事項を、後述 6.（1）の申請書類で示してください。1 大学から複数申請することも可能ですが、特定大学からの申請が集中した場合には、審査結果を踏まえ、調整させていただく場合があります。

※ 複数申請される場合は、それぞれ申請書類をご準備ください。

（1）TypeB での出展を希望する場合

（ア）体験型コンテンツの核となる産学官連携の研究成果について

核となる研究成果、またその強み・特徴をどのように体験型コンテンツへ活用するか、分かりやすく記載してください。特に、研究成果の新規性や優位性がどのように出展に活かされるのかという観点から分かるよう記載してください。

（イ）体験型コンテンツ内容について

制作する体験型コンテンツの概要が分かるよう、参考画像（イメージ図）等を申請書類に添付して具体的に記載してください。（必要に応じて補足資料を別添いただいても構いません。）また、イベント会場の調整にあたり、各展示で必要となるスペースを把握するため、想定される寸法、重量等を可能な限り具体的に示してください。その際、特に、「1. 本番イベントの趣旨・目的」のとおり、来場者が“未来のありたい社会”を想像し、未来を担う国内外の若者たちが共に社会課題を自分事として捉える機会を提供する観点から、どのような気付きや驚き、感動等を与えることができるのか記載してください。

また来場者に産学官連携や研究成果の社会実装がどのようなものであるか知ってもらう観点や、中高生などの若者に対して、科学を介してコミュニケーションを試みるといった観点から、展示コンテンツとして分かりやすい内容になっているかについても記載してください。

展示スペース内でワークショップの実施を予定している場合は、1 回の時間、人数、1 日の開催回数等を具体的に記載してください。

水道設備、大容量の電源設備等を必要とする等、特別な事情がある場合は、具体的に必要な条件について記載してください。ただし、会場側で手配できることを保証するものではありません。照明や音響の面で周囲の展示に配慮すべき点がある場合は、記載してください。

展示スペースは原則 13 m²（3.6m×3.6m）としておりますが、もし体験型コンテンツの寸法が 13 m²の展示面積に収まらない場合は、最低限必要となる面積や高さ、理由を記載してください。

※ 体験型コンテンツを基にしたステージプログラムについて（任意）

会場内にステージを設置し、企画の一環としてトークセッション等のステージプログラムを実施する予定です。体験型コンテンツを活かして、さらなるイベントの充実に向けて有効と考えられるステージプログラムの提案がある場合は記載してください。

(ウ) 希望する展示ゾーンについて

4つのゾーン（「自分とつながる」「周囲とつながる」「社会とつながる」「地球とつながる」）のいずれのゾーンでの出展を希望するか、具体的な背景・理由とあわせて記載してください。出展希望ゾーンが偏った場合には、出展ゾーンを調整させていただく場合があるため、出展希望ゾーンは1つだけではなく、優先順位を付けて複数のゾーンを記載してください。

(2) TypeC での出展を希望する場合

(ア) 展示の核となる研究者について

研究内容を紹介する、代表的な研究者について記載してください。

(イ) 産学官連携の研究成果について

当該研究者の研究成果、またその強み・特徴について、記載してください。

(ウ) 出展方法について

3 (2) の出展方法（パターン【1】、パターン【2】）のいずれか、又はいずれでも可を希望するのかについて記載してください。全体の希望状況のバランスを見て、どちらかの展示パターンでの採択となります。希望するパターンについて、それぞれ以下のように詳細を記載してください。

【パターン1】

中高生の興味を引くような、クイズの出題内容と回答内容をわかりやすく記載してください。また、展示内に掲載可能な、研究内容をわかりやすく伝えられる写真・画像等を添付してください。（ファイル形式は JPEG、PNG、TIFF のいずれか、縦横比は 4:3 もしくは 3:2 とします。）

いただいた画像については、本事業目的以外では利用しません。なお、採択後に展示内容の調整の過程で再度写真等の提供または修正をお願いする場合があります。（より高解像度の画像提供等。）

【パターン2】

ハッシュタグ（#サイエンスで○○な未来へ）及び、研究成果を中高生に分かりやすく伝える Q&A を記載してください。また、ハッシュタグの書かれた白い紙を持った研究者のプロフィール画像及び、展示内に掲載可能な、研究内容をわかりやすく伝えられる写真・画像等を添付してください。

(ファイル形式は JPEG、PNG、TIFF のいずれか、縦横比は 4:3 もしくは 3:2 とします。)

いただいた画像については、本事業目的以外では利用しません。なお、採択後に展示内容の調整の過程で再度写真等の提供または修正をお願いする場合があります。(より高解像度の画像提供等。)

(エ) プレイベントへの出展可否

プレイベントへの出展を希望する場合は記載してください。

※ プレイベントは TypeC の展示スペースが限られるため、プレイベントへの出展可としていても本番イベントのみの採択となる場合があります。

(3) 申請に関する留意事項

(ア) 申請大学等は、本番イベントへの出展をより効果的に実施するために、他の連携する大学等（以下、「連携大学等」という。）との共同による体験型コンテンツの制作及び出展が可能です。ただし、本募集への申請は申請大学等がとりまとめることとし、連携大学等が同内容を重複して申請することはできません。

(イ) 本番イベントの詳細設計や各展示スペースの調整等は、文部科学省が令和 6 年度に行う業務委託『「2025 年日本国際博覧会」における産学官連携拠点の出展に係る企画設計及び機運醸成業務』で実施するワーキンググループ、及び令和 7 年度に行う予定の業務委託で実施するワーキンググループ等を通じて決定する予定であり、これに伴うコンテンツ内容の調整に随時ご対応いただくようお願いいたします。また、担当者を中心に当該ワーキンググループへの参加・連携を求める予定ですので、ご承知おきください。

5. 審査

(1) 審査の観点

審査は、以下の観点に基づき総合的に実施します。

【TypeB】

(ア) 「2. (2) 本番イベントのコンセプト」及び、希望するゾーンのコンセプトに合致した内容になっているか。

(イ) 体験型コンテンツとして優れた企画であるか。五感に訴える等、来場者が能動的に体験できる、ユニークで魅力的な展示内容であるか。

(ウ) 産学官連携施策を通じた成果や活動について、来場者に分かりやすく発信できそうか。特に、中高生などの若者が社会課題やその課題解決に資する科学技術を自分事と感じ、理解ができる内容になっているかどうか。新

規性、優位性のある研究成果が含まれる内容か。

- ※ また、(ア)～(ウ)とは別に、体験型コンテンツを基にしたトークセッションの内容の提案がある場合は、イベントの充実に向けて有効なものであるか等、採択後にご相談させていただきます。

【TypeC】

- (ア)「2.(2) 本番イベントのコンセプト」に合致した内容か。
- (イ) 産学官連携施策を通じた成果や活動について、写真や画像等を用いて来場者に分かりやすく発信できそうか。特に、中高生などの若者が社会課題やその課題解決に資する科学技術を自分事と感じ、理解ができる内容になっているかどうか。新規性、優位性のある研究成果が含まれる内容か。
- ※ ゾーンごとの展示件数のバランスを考慮して採択を行うため、希望されたゾーンと異なるゾーンで採択される場合があります。希望と異なるゾーンの採択となった場合は、採択通知の送付と併せて、出展の意向を確認させていただきます。

(2) 審査方法

文部科学省が、有識者で構成される審査委員会を開催し、申請内容について総合的に審査を行い、採択の可否を決定します。

(3) 採択予定件数

【TypeB】

全体で 13 件程度（内定済みの件数を除く。）

- ※ ゾーンごとに下記の件数を上限として採択を行います。

「自分とつながる」：3 件程度 「周囲とつながる」：3 件程度

「社会とつながる」：3 件程度 「地球とつながる」：3 件程度

【TypeC】

パターン 1、2 合わせて 40 件程度

- ※ プレイメント及び本番イベントに出展いただくものを 5 件程度、本番イベントのみ出展いただくものを 35 件程度採択します。

6. 手続き及びスケジュール等

(1) 申請書類の提出

申請にあたっては、提出先に記載の URL より、ウェブフォームに申請内容を入力してください。

<提出先>

(ア) TypeB での出展を希望する場合

<https://forms.office.com/r/L7HvaWAQFm>

(イ) TypeC での出展を希望する場合

<https://forms.office.com/r/9MKDUayqFf>

※ 企画内容を具体的に示す参考画像（イメージ図）等は、フォーム内に記載の URL にアップロードしてください。画像以外に、任意の補足資料を添付することも可能です。

※ フォームに入力できない、画像のアップロードができない等ありましたら、下記の<募集に関する問合せ先>へご連絡ください。

<提出締切>

令和6年12月13日（金）正午 必着

<募集に関する問合せ先>

〒100-8959 東京都千代田区霞が関三丁目2番2号

中央合同庁舎7号館東館15階

文部科学省科学技術・学術政策局産業連携・地域振興課

TEL：03-6734-4195

E-mail：coi-next@mext.go.jp

<本番イベント及びプレイベントの内容に関する問合せ先>

文部科学省主催 2025年 日本国際博覧会（大阪・関西万博）

「わたしとみらい、つながるサイエンス展」事務局（三菱総合研究所内）

担当：今村、荒木、小野

E-mail：tsunagaru-mext2025@mri.co.jp

(2) スケジュール案（想定）

注：変更の場合もあり得ます。

令和6年11月26日（火）

募集開始

令和6年12月13日（金）正午

募集締切

令和6年12月20日（金）頃

審査委員会

令和6年12月下旬頃

審査結果の通知

(3) 結果の通知

最終的に、全ての申請について結果の通知を行います。

7. その他

(1) 申請書類の提供について

本募集案内に基づきご提出いただいた申請書類等については、出展の企画検

討に必要な情報を収集する観点から、文部科学省が行う下記業務委託の受託機関へ提供させていただきます。

業務委託先においては、申請内容に関しての守秘義務が遵守されますが、業務委託先への提供が困難な情報が申請内容に含まれている場合は、その旨と提供すべきでない内容について、「6.（1）募集に関する問合せ先」へご連絡ください。

<本事業に係る業務委託一覧>

- ① 「「2025 年日本国際博覧会」における産学官連携拠点の出展に係る企画設計及び機運醸成業務」（令和 6 年度実施）（受託者：株式会社三菱総合研究所）
- ② 「大阪・関西万博を契機とした大学等を中核とする産学官連携の加速化事業に係るプレイベント運営等業務」（令和 6 年度実施）（受託者：未定）

TypeB の出展に係るルール等について

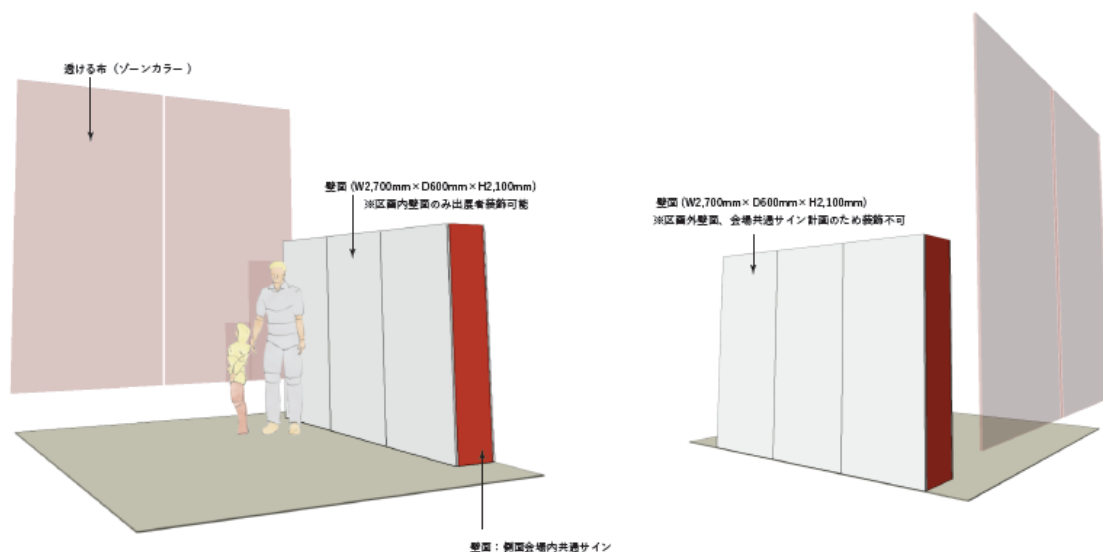
(1) 展示に係る条件

- 展示スペース（3.6m×3.6m）の一边に展示壁面を主催者にて設置します。展示壁面内側は出展者側で装飾していただきます。パネルの設置や出力貼りなどの展示に使用できます。展示壁面外側については、主催者側にて装飾します。

展示壁面（予定）：W2,700mm×D600mm×H2,100mm

木工パネル、白無地シート貼り

- 会場のゾーンや展示間の仕切りとして、透過性のある間仕切り幕を使用する場合があります。間仕切り幕への展示物の掲出および取り外しや形状の加工などはできません。
- 展示物および各種造作物は、高さ 3,000mm 以下の自立型とし、転倒することがないように措置を講じてください。



- 天井や壁、配管などを支持物として使用しないでください。
- 床面への釘打ちやアンカー打設、塗料の直接塗装、傷跡や塗装の剥がれ、跡が残るテールの使用など、施設への直接施工はできません。
- 施設内を毀損・汚損あるいは漏水する恐れがある場合は、あらかじめ養生してください。
- 天井構造また複数階建構造は原則として禁止します。
- 展示装飾で使用する装飾資材は消防法施行規則に適合した防火加工されたも

のを使用してください。

- ・バルーン類の使用は、展示用・配付用に関わらずすべて禁止します。
- ・ストックスペースはありません。必要な場合は、展示スペース内に設けてください。

（２）多言語対応

- ・主だった説明文やキャプション、サインなどは日本語・英語の表記が必須です。スペースの限界や視認性への配慮から日英表記/併記が困難である場合は、２次元コードなどの補助媒体を活用するなどの対策を講じてください。
- ・映像などに字幕がある場合は、日本語・英語の表記をお願いします。
- ・各種アナウンスは、日本語・英語でのアナウンスを必須とします。
- ・英語対応が可能なスタッフの配置や翻訳アプリの活用などにより、多言語コミュニケーションが実現できるようにしてください。

（３）ユニバーサル対応

- ・サインや解説文などについて、文字や記号の読みやすさ（大きさ、太さ、フォント、色彩など）、色相、照度などを考慮してください。
- ・視覚または音声による情報が得にくい方への対応として、音声ガイダンスや展示の概要資料（２次元コードでの提供を含む）の作成を検討していますので、展示概要の作成等にご協力をお願いします。
- ・車いす、シルバーカー等の歩行補助器、白杖、補助犬などの利用者が安心・安全に観覧できるよう、通路幅や展示物の形状・高さなどに配慮してください。

（４）協賛・協力企業等に関する基本ルール

- ・出展ブースの名称・タイトルへの冠表示は、出展機関名のみ可とします。協賛・協力企業等の企業名・団体名、商品名・ブランド名などは一切使用できません。
- ・産学官連携施策を通じた成果や活動といった当イベントの企画内容に関するものに限り、出展ブース内や協賛物品などに協賛・協力企業等の企業名・団体名、ロゴを掲示することが可能です。商品名やサービス名は不可とします。企業名と商品名が同一の場合は企業名として掲示が可能です。
- ・産学官連携施策を通じた成果や活動といった当イベントの企画内容に関するものに限り、出展ブース内やステージイベントで上映する映像に協賛・協力企業等の企業名・団体名、ロゴを掲示することが可能です。商品名やサービス名は不可とします。なお、協賛・協力企業等単体での「企業・団体としての映像素材（広告）」の上映はできません。
- ・産学官連携施策を通じた成果や活動といった当イベントの企画内容に関するものに限り、出展ブース内やステージイベントで上映する映像に協賛・協力企業等の企業名・団体名、ロゴを掲示することが可能です。商品名やサービス名は不可とします。なお、協賛・協力企業等単体での「企業・団体としての映像素材（広告）」の上映はできません。

あるものに限り、展示ブース内の指定エリアにて物品の配布が可能です。席置き配布は「座席への事前配布」を含めステージエリアでは実施できません。（指定エリアは博覧会協会との協議等により決定します。）サンプリング品が販売されている商品の場合は、試供品、サンプリング品の表示が必要です。すべてのサンプリング品は、博覧会協会への申請・審査が必要となります。（事務局でとりまとめて申請します。）

- ・産学官連携施策を通じた成果や活動といった当イベントの企画内容に関するものに限り、協賛・協力企業等に関するチラシを配布することが可能です。商品・サービスの **PR**・販促を目的としたチラシの配布はできません。デジタル **QR** の掲示は可能です。チラシのデザイン・仕様、デジタル **QR** のリンク先 **URL** に関しては、博覧会協会への申請・許諾が必要となります。（事務局でとりまとめて申請します。）
- ・協賛・協力企業等の **web** サイトや **SNS** などのメディアにて、本番イベントに出展しているコンテンツを掲載することが可能です。
- ・産学官連携施策を通じた成果や活動といった当イベントの企画内容に関するものに限り、展示ブース内の指定エリアにてアンケートの実施が可能です。紙媒体でのアンケートの実施はできません。（指定エリアは博覧会協会との協議により決定します。）個人情報の取得はできません。アンケートの内容などは、博覧会協会への申請・許諾が必要となります。（事務局でとりまとめて申請します。）